

## 職業実践力育成プログラム(BP)への申請について

令和2年10月5日

①学校名:	三重大学 大学(国立)	②所在地:	三重県津市栗真町屋町1577			
③課程名:	大学院地域イノベーション学研究科 博士前期課程 地域イノベーション学専攻	④正規課程 ／履修証明 プログラム:	正規課程	⑤開設年月 日:	2009/4/1	
⑥責任者:	地域イノベーション学研究科長 三宅秀人	⑦定員:	地域イノベーション学専攻15名 (2019年度修了者数9名)	⑧期間:	2年間	
⑨申請する課程 の目的・概要:	本課程は地域のニーズを発見し、問題解決するための新しい概念と方法を創造し、それらを国内のみならず海外にも展開できる地域イノベーション学に関わる高度な思考方法と実現方法を教育することを目的としている。さらに、地域イノベーションを実践している経営者並びに地域自治体の協力を得た実践的な教育を行う仕組みを組み込むことで、地域発のイノベーションを推進できる能力とプロジェクト・マネジメントに携わる高度な能力を兼ね備えた人材を養成することを使命としている。					
⑩4テーマへの 該当の有無	地方創生 (地域活性化)	⑪履修資格:	・学校教育法第83条第1項に規定する大学を卒業した者 ・入学資格審査により大学を卒業した者と同等以上の学力がある22歳に達した者			
⑫対象とする職 業の種類:	地域中核企業の基幹社員及び幹部、地方自治体の基幹職員及び首長候補者					
⑬身に付けるこ とのできる能力:	(身に付けられる知識、技術、技能) 地域イノベーションに関する知識、プロジェクトマネジメ ント能力、基礎研究能力			(得られる能力) ビジネスと研究開発の両方を理解してプロジェクトを遂 行する能力		
⑭教育課程:	本課程には3つの教育ユニットが存在し、「工学イノベーション・ユニット」、「バイオイノベーション・ユニット」ではプロジェクト・マネジメントができる研究開発系人材の育成を行い、2017年度に新設した「社会イノベーション・ユニット」では地域にゼロから1を創造できるソーシャル・アントレプレナー人材の育成を行っている。いずれの教育ユニットも、プロジェクト・マネジメントができる実践的な人材を育成する教育を遂行するために、専門教育を担当するR&D(Research and Development)教員とプロジェクト・マネジメント教育を担当するPM(Project Management)教員が立ち位置の違う視点から並行して指導を行う「サンドイッチ方式教育」を行っており、本研究科の特徴的な教育方式として実施している。また、必修科目として「インターンシップ研修」を行っており、企業担当者とPM教員が学生を交えて実施するインターンシップで取り組む実践的な課題を設定し、取り組むことを行っており、社会で活躍するための実践力を身に付けさせる教育にも注力している。					
⑮修了要件(修 了授業時数等):	38単位以上の修得、学位論文の提出及び審査の合格					
⑯修了時に付与さ れる学位・資格等:	修士(学術)					
⑰総授業時数:	100 単位	⑱要件該当授 業時数:	74	該 当 要 件	企業等 双方向 実務家 実地	⑲要件該当授業時数 ／総授業時数: 74%
⑳成績評価の方法:	各科目についてシラバスを作成し、各科目が定める評価項目(出席状況、試験、提出された課題レポートなど)の評点を基に、総合的に判断することで成績評価を行っている。例えば、必修科目である地域イノベーション学特論では、「授業ごとに提出する小レポート(感想文)50%+レポート50%(合計が60点以上で合格)」と定めている。					
㉑自己点検・評 価の方法:	学校教育法第109条第1項に定めた評価を実施し、同条第2項による認証評価による適合評価を受け、その評価結果等を本学HPにて公開している。					
㉒修了者の状況 に係る効果検証 の方法:	修了者の就職先等を把握し、教育目的に沿った就職先・職種での就職がかなっているか否かを把握している。また、修了者が就職した多くの企業とはインターンシップ受け入れなどの教育での交流も行っており、これらの企業の経営者・担当者から本研究科の修了者及び学生の資質について客観的な意見をいただくことで、教育効果を検証している。					
㉓企業等の意見 を取り入れる仕 組み:	(教育課程の編成) 三重県農林水産部が次世代の農業経営者を育成する目的で開講している「みえ農業版MBA養成塾」の塾生に本課程のプロジェクトマネジメント教育の科目を開放している。この関係から、同養成塾の運営会議に本課程から教員が参加し、本課程が行っているプロジェクトマネジメント教育の科目構成、内容について意見をいただくことを行う。 (自己点検・評価) 本研究科を修了した企業経営者らが組織する同窓会がある。この同窓会と教授会は定期的に交流会を行っており、その機会を活用した意見を拝聴すること、また、インターンシップ事後報告会にて行う交流の場でも意見を拝聴する機会を設ける。					

<p>⑭社会人が受講しやすい工夫:</p>	<p>・「PM教員による定期的な面談」を実施することにより、指導教員以外に、学生を指導する教員としてPM教員を各学生に一人つけており、このPM教員が各学生の学習の進捗について相談に乗るなど、就学上の支援を行っている。このため、本研究科では社会人に対しても、学生一人に対して一人のPM教員が担当することで、前述のような各学生の学習の進捗について相談に乗るなど、就学上の支援を行っている。特に、社会人の場合には学生ごとに状況が異なるため、履修科目の選定、研究の進捗管理、論文の書き方など、各学生に適した内容を組み立てながら支援を行っており、社会人が就学しやすくなっている。</p> <p>・「レポート提出による成績評価」をすることにより、本研究科では必修科目である地域イノベーション学特論、地域イノベーション実践特論などで、講義終了後に各学生から講義の理解度を図り、疑問点を問い合わせるための出席確認を兼ねたレポートの提出を毎回行わせ、次回の講義に反映させる教育を行っている。また、この方式を成績評価の一部としている。なお、成績評価は、出席数、各講義後のレポート、最終レポートの内容を総合判断して行っている。この方式を、社会人学生には、オンデマンドでも講義を視聴できるようにし、各講義の視聴後に同様のレポートを提出させる方式を取り入れており、時間の制約を受けずに講義を受けやすく、かつ、理解度と疑問点の把握を行っている。さらに、社会人学生を対象にレポート内容の確認などオンラインによる面談をPM教員が行っており、大学に来なくても補完的な指導が行える方法を整えている。</p>
<p>⑮ホームページ:</p>	<p>(URL) <a href="http://www.mie-u.ac.jp/innovation/">http://www.mie-u.ac.jp/innovation/</a></p>

---

<p>事務担当者名:</p>	<p>隅田 泰二</p>	<p>所属部署:</p>	<p>三重大学学務部教務チーム</p>	
<p>連絡先:</p>	<p>(電話番号)</p>	<p>059-231-9056</p>	<p>(E-mail)</p>	<p>kyomu-k@ab.mie-u.ac.jp</p>

\* パンフレット等の申請する課程の概要が掲載された資料を添付してください。

\* 様式に記載いただいた内容と欄外の「※集計用データ(文部科学省使用)」に記載の内容が、一致しているかを必ずご確認ください